

〔第5回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

骨格筋の老化に関与する2つの局面について ～Primaryなサルコペニアと老化筋再生～

再生再建医学研究部 細胞再生研究室

上住 円 室長

2016年1月12日(火) 16時00分～16時40分
第1研究棟2階大会議室

加齢に伴う筋量の減少および筋機能の低下をサルコペニアと呼ぶ。骨格筋は運動や身体活動を司る組織であり、その機能低下はQOL (quality of life) やADL (activities of daily living) の低下に直結する。超高齢社会を迎えた我が国にとってサルコペニアを予防することは重要な課題である。骨格筋を標的に高齢者の健康増進を図る場合、2つの局面を厳密に区別する必要がある。第一の局面は加齢に伴い筋が衰弱していくprimaryなサルコペニアの過程であり、第二の局面は筋が衰弱した結果誘発される転倒などによって被る筋損傷からの回復過程である。筋損傷からの回復には再生や幹細胞が関与する。一方、primaryなサルコペニアそのものは、筋が壊れ続けその治りが悪いからおこるわけではなく、定常状態の骨格筋の維持機構が重要になってくる局面である。

本報告会では、まず第二の局面に関与する老化骨格筋の再生について、続いて第一の局面で重要となる定常状態の筋の維持機構と老化について、我々の研究から明らかになってきたことをお話ししたい。

座長：松下 健二